

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人南郷福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームみのりの家 すみれ棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先の介護支援ではなく、入居者や一人ひとりに合った個別ケアに力を入れ、職員全体の情報の共有・共感を基に統一ケアに努めている。日常生活では「ゆったり」「のんびり」と時間が流れ穏やかな笑顔が見られております。その日その時の入居者からの希望を取り入れたレク活動や四季折々の行事を行い楽しんで頂いております。地域の行事に参加したり一斉清掃や避難訓練時には地域の方々の協力を得ながら参加する事にて地域の方々とも顔なじみとなり散歩や受診時には気軽に声をかけて下さる等、地域との交流を大切にしている。また、入居者の家族とも連絡を密に行い関係強化に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みのりの家」は社会福祉法人南郷福祉会が運営する特養・ケアハウスなどと共に広い敷地の一面にあり、様々な場面で連携している。県内の介護事業の先駆者ともいえる法人は、開設以来21年目を迎え、近隣の町立の南郷病院・福祉センター、JAみどりのと連携し、地域に密着した事業運営に取り組んでいる。ユニットごとに独自の理念を作り、利用者が笑顔で、のんびり、楽しく過ごせることをめざし、また、家庭のような雰囲気を大切にし、職員は服装(普段着)や接し方(家族のように)に配慮している。理事長は利用者や昔馴染みのように声をかけ、親しくお茶を楽しんだりしている。地域の防災訓練に参加し、町の文化祭に出品するなど地域の一人としての交流をしている。協力医療機関の町立南郷病院や、健康管理を行う法人の看護師などとの医療連携体制は充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームみのりの家 ）「 ユニット名 すみれ棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりの家」の理念を各棟に掲示、スタッフ会議で確認し合っているだけでなく、各棟ごとに理念を決め常に目のつく所に掲示しそれに基づきケアを行っている	ホームの理念に“住み慣れた地域の一員としての生活継続支援”を掲げ、ユニットごとの理念を全職員で作成、見やすい所に掲示し、利用者がのんびり、ゆったり、笑顔で過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や小学校の行事への参加、駅伝応援、一斉清掃や避難訓練は地域の方々の協力の元参加し、施設周辺の散策や病院受診時の地域の方々との交流、商店街への買い物等があげられる	町内の一斉清掃、避難訓練、文化祭への出品などで交流している。区長が月1回広報紙を持参、行事案内などの情報を提供している。法人主催の運動会、夏祭りに近隣住民が参加し交流している。マンドリン演奏や、書道の指導などのボランティアも訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事に参加する事により地域の方々に認知症への理解を頂いている。また、散策の様子を見ていただくことにて理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及びご家族様を交えた運営推進委員会を年6回開催し、日頃の活動内容及び入居者様のご様子、運営状況を報告すると共に参加者からの意見は真摯に受け止め、サービス向上に活かしている	町職員、地域包括職員、地域住民、家族代表、利用者代表の参加で年6回開催している。運営状況など報告し意見交換している。ここでの提案から町内のグループホームの交流会が開催されるようになった。また、誕生会は誕生日に開催されるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは密に連絡を取り合い、困難なケースの解決方法や法律が変わった際には新味にアドバイスを頂き常に協力関係が築けるよう取り組んでいる	町担当者は運営推進会議に参加し、意見交換している。生活保護・成年後見人制度の利用について連携している。町担当者、地域包括職員より入所希望の相談などがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの柵や施錠はしておらず、事業所内部研修や法人内研修に参加し、職員一人ひとりが理解に努めており、特に言葉による身体拘束に気を配り取り組んでいる	日中、施錠せず、帰宅願望のある方にも、声掛けを工夫し自由に過ごせるように支援している。身体拘束をしないケア・接遇・プライバシーについて法人として研修している。敷地内の法人の他施設や近隣住民の見守りの体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で職員一人ひとりが虐待防止に理解を深め、言葉や態度による虐待に気を配っている。また、家族からの虐待が感じられた時には家族との交流を密にし問題解決にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での内部研修及びスタッフ会議にて学習する機会を設けている。現在、成年後見人制度を使用されている入居者様もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には諸書類を丁寧に説明し不安な点や疑問点は尋ね説明・納得して頂き契約し改定があればその都度文章にて報告説明している。また、解約時にも十分な話し合いをし解約の手続きをしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟にご意見箱を用意しアンケートや家族会にて意見・要望を聞く場を設けており、面会時等に気軽に話しかけて頂ける雰囲気づくりに努めている	家族の面会や、毎月の状況報告の際に意見要望を聞いている。希望に応じて複数の家族に「たより」を届けている。敬老会の後など年2回「家族のつどい」を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員からの意見や提案等を聞く機会を設け、出た意見や提案等は職員全員で話し合い、共有し質の向上に努めている	月1回のスタッフ会議、連絡ノート活用で意見交換している。広報、行事等係としての立場から提案することができる。ランチバイキングや、玄関に担当職員の写真を掲示などの提案があり、実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉等の資格を習得した職員には資格手当を支給し賞与や昇給にも配慮しやりがいのある職場環境に努め、国家資格を受験し取得すると共に諸研修等に参加するよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員の力量を把握すると共に、諸研修会に参加する機会を与える事にて質の良いサービスが提供できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会が主催する交流会や町内のグループホームの会議に参加しネットワーク作りに努め、外部研修やグループホーム協議会主催の報告会等に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族の話を傾聴し、今のようなケアを必要としているのかを把握しながら入居者に寄り添い信頼関係を築き、なんでも話しやすい雰囲気づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査や契約時に困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、これからどのような支援を行って行くか詳しく説明する事にて信頼関係を築き、面会時には積極的に声をかけ入居者様の様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が支障となっている所を見極め自立支援に向けどの様な支援が必要なのかご本人及びご家族へ説明し納得して頂いた上でケアプランに取り入れ、その人らしい生活を送れる様支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、今できる事を見極め職員と一緒に掃除機かけや洗濯物たたみ・配膳・下膳等を積極的に行っている。また、敬う気持ちを忘れずにケアを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へはお便りとみのりだよりにて入居者様の日常生活面をご報告し相談事があればその都度対応しており、ほとんどのご家族は月一回は面会に来られ居室や談話室にて過ごされている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで親しくされていたお友達や近所の方が面会に来られたり、馴染みの店へご家族や職員と一緒に買い物へ出掛けている	好物のおやつや好きな花などの買い物、馴染みの店などに出掛けている。2ヶ月に1回、地元の理容室が来訪している。家族と一緒に美容院や墓参りが出来るよう支援している。知人や友人が訪問しお茶を楽しめるよう配慮している。	家族が気軽に訪問できるような「カフェ」などの取組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの個性を把握し、共通の楽しみ(カラオケ・風船バレー・カルタ等)のレク活動を企画・参加して頂いている。また、配膳時等には入居者同士が協力し合う姿が見られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の事について不安等があれば相談に応じると共に、必要時にはご家族の承諾の上アセスメント等を次に入所される所へお渡ししております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際にご本人及びご家族の意向を把握しケアプランに取り入れている。意思疎通が困難な場合は介護支援専門員が代弁者となりご本人の意向が聞き出せる様努めケアプランに取り入れている。	職員は利用者2人を担当し、ゆったりと対応する時間をつくり、特に意識して意向把握に努めている。把握困難な利用者は、表情から汲み取り、家族から情報を得るなどして支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時には生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等をご本人又はご家族よりお聞きすると共に、ご家族の承諾の上、これまで利用されていた事業所から情報収集をしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活の流れを観察した上で残存機能を把握し職員全員で共有しながら、心身の状態は細かくケース記録に残し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支障となっている事につきご本人及びご家族の意向を聞き入れ自立支援に向けたケアプランを作成し、モニタリングは基本3カ月毎、心身状態の変化時はその都度行い、現状にあった介護計画の見直しを行っている	3ヶ月に1回モニタリングし、年2回、家族の要望も入れてプランを見直して説明している。また、必要に応じて、管理者、ケアマネジャー、家族が相談し、かかりつけ医の意見も勘案し、プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づき・工夫は個別に記録し、ケアの実践は「ケアプランチェック表」に記入し職員間で共有し基本3カ月毎、心身状態の変化時はその都度モニタリングを行い再アセスメントし介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状態の変化により新たにニーズが発生した場合はその都度ケアカンファレンスを行い再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づき支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校関係だけでなく、近所の商店への買い物、地場産品売り場やスーパーへの買い物などに出かける事が入居者様の楽しみになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望により協力病院や精神科を受診しておりその際は入居者様の状態を画面にて報告することにて適切な診断を受けられており、かかりつけ医と事業所との連携も図れている	本人、家族の希望するかかりつけ医(南郷病院など)で、家族、職員が付添い受診し、結果は情報共有し、日々の支援に反映している。必要に応じ眼科や精神科の受診を支援している。法人の看護師が週3回健康管理し、利用者が入所後薬を必要としなくなるなど改善がみられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回勤務しており、入居者様の体調の変化や状況を報告・相談し指示を受け、必要時かかりつけ医に受診しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書を病院へ提出し時々、看護師や職員が病院へ行き医師又は看護師より情報を得て早期に退院出来る様努めている。そうした場合に備え、定期受診時に病院関係者との信頼関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期に綿密に話し合いを行い今後の方針を決定し、終末期のあり方については入所時に「出来る事と出来ない事」を説明し意思同意書に記入してもらい、その方針は共有化し地域の関係機関に連絡しチームで支援に取り組んでいる	「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する意思確認書」に基づき家族・利用者に説明し同意書で意思確認している。基本、ホームでの看取りはしておらず、病院や他施設に移られた際には、連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の内部研修及びスタッフ会議にて学習会を開催し、応急手当や初期対応の仕方・AEDの使い方も定期的な講習に参加し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに基づき昼夜を想定した避難訓練を毎年定期的に行う事にて全職員に身に付け、災害時には法人は元より地区の消防団・協力病院・農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制を整えている	マニュアルを作成し、スプリンクラーを設置している。年2回避難訓練を消防団、近隣住民等の協力で実施している。夜間想定訓練は、夜8時に火元をユニット交互に想定し実施している。同敷地内の他施設との協力体制もあり、法人としての備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議にて接遇に関する内部研修を行い一人ひとりの人格を尊重した呼び方やトイレ誘導時等は何気なく声掛けをする等プライバシーを損ねない声掛けやスピーチロックに心がけ対応している	プライバシーの保護、接遇についての内部研修を実施し、スピーチロックには特に注意し、一人ひとりを尊重した支援を心掛けている。例えば、耳の遠い方には前から、またタッチしてから耳元で声を掛けるようにしている。希望の呼称で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が自分の想いや希望を表現しやすい雰囲気づくりに努め、その想いを職員全体で受け止め本人が自己決定出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の生活を押し付けることなくご本人のペースにてゆったりと生活が送れ、毎日のレクリエーション等においては入居者様の意見を取り入れ無理強いせずご本人のペースを重視している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来る様自分の好きな服を選んで来て頂いたり、おしゃれに関しては、毎日お化粧をされている方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳等は出来る範囲でお手伝いして頂き、旬の食材の使用・季節料理を提供する事にて季節感を感じて頂き、食べたい物を聞き出しメニューに取り入れる等食事を楽しんで頂けるよう支援している	法人の管理栄養士がメニューを作り、地場産品の季節の野菜を使って、職員が調理している。きざみ食やとろみ食にも対応している。配膳や調理に利用者も参加し、干し柿作りにも取り組んだ。赤飯、おくづかけなどの行事食、誕生日の手作りケーキ、外食などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が立てたメニューを基に食事を提供しており栄養のバランスは図れている。また、十分な水分補給に努め身体機能や状態に応じた食事形態で提供し摂取量にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自のコップにてうがいをして頂くと共に起床時及び就寝前はその方の能力に応じ、うがい又は歯磨きをして頂き口腔内の清潔が保持できるよう支援している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況の都合上常時オムツ使用している方は二名おりますが一人ひとりの排泄パターンや仕草よりサインを察知し何気なく声掛けをトイレにて排泄をして頂く事にて自立に向けた支援をしています	排泄チェックリストに基づき、トイレで排泄できるよう支援をしている。「おしくらまんじゅう」、「おらほのラジオ体操」などで体を動かし、繊維質の多い食事、水分補給などでスムーズな排便に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通じて十分な水分補給に努めており記録に留めております。また、ラジオ体操や体を動かす事に心がけたり、毎日牛乳を提供したり、食物繊維の多い食材を取り入れた食事を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は一日おきの入浴となっているが、希望時はいつでも入浴が可能であり、日替わりで入浴剤を使用し温泉気分を楽しんで頂いている。また、一人ひとりの身体状況を把握し入浴支援を行っている	2日に1回の入浴を目指し柚子湯、菖蒲湯など入浴を楽しんでいる。希望者には好きな時間、毎日の入浴支援も行っている。手すりなどが工夫され、滑り止めのマットが準備され、安心して入浴できる体制を整えている。無理のない入浴への声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しゆったりと生活して頂いている。また、日中散歩したり身体を動かす活動を多く取り入れることにて自然な眠りが出来る様支援し、就寝時間は個々のペースにて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳を準備し処方箋を使用し常に職員が把握に努めている。特に薬が変わった時は副作用や用法・用量を申し送りしている。常に服薬の支援と副作用の観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に応じた役割を職員と一緒にやる事にて張り合いのある生活が送れる様支援したり、ドライブや買い物・散歩・ボランティア活動及び行事等に参加して頂く事にて気分転換が図れる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒にドライブや買い物に出掛けたり、入居者様全員での外食やご家族と合同の忘年会等へ参加されている。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加したりご家族の協力の元、外出や外泊も楽しまれております	年間計画を立て、季節の外出を楽しんでいる。日常的には、天候など見ながらドライブや好きな花など買い物に出掛け、おやつ外食も楽しんでいる。忘年会は南三陸の「ホテル観洋」に家族と一緒に出掛けた。日々、近所の散歩で近隣住民と挨拶を交わしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は預かり金として管理しておりますが、買い物へ出掛けたり、併設施設でのスナックかかし等での支払いは能力に応じご本人に支払いを行って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話には直接お話しし、残暑見舞いや年賀状の郵送・家族から手紙が来た際はご本人にお渡し読めない方は職員が代読・本人から家族への手紙も預かり郵送している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気や時間の経緯が分かるよう自然光を取り入れたり、温度・湿度・換気・気を配り快適に過ごして頂けるよう配慮している。また、玄関や廊下・食堂等には季節感のある装飾品や草花を飾る事にて居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	リビングは明るく和風の木造の内装で、畳のコーナー、和紙の照明など落ち着いた空間となっている。ウッドデッキは、日向ぼっこやバーベキューに使われている。共用空間には、日めくりカレンダーや新聞があり、利用者の買ってきた季節の花や、クリスマスの装飾などから季節を感じられるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娯楽室のペースを設けており、お一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思いつきに過ごせる居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長のように安心して生活が送れる様、ご家族と相談しながら使い慣れた筆筒や位牌・昔の写真を飾ったり、馴染みの小物を置く事にてご本人が居心地良く過ごして頂けるよう工夫している	居室には掃出し窓に障子がつき、和の趣きがあり、ベッド、押入れ、洗面台が備わっている。廊下側に小さな障子の小窓がついている。入口には写真と名前の表札があり、好みの椅子や日記を書くテーブルなどが置かれ、家族写真や外出の際の写真などが飾られ、その人らしい工夫がある。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式トイレに補助具・脱衣場にも補助具が付いており残存機能を生かし出来る所が安全に自立した生活が送れるよう環境作りに工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人南郷福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームみのりの家 すずらん棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

業務優先の介護支援ではなく、入居者や一人ひとりに合った個別ケアに力を入れ、職員全体の情報の共有・共感を基に統一ケアに努めている。日常生活では「ゆったり」「のんびり」と時間が流れ穏やかな笑顔が見られております。その日その時の入居者からの希望を取り入れたレク活動や四季折々の行事を行い楽しんで頂いております。地域の行事に参加したり一斉清掃や避難訓練時には地域の方々の協力を得ながら参加する事にて地域の方々とも顔なじみとなり散歩や受診時には気軽に声をかけて下さる等、地域との交流を大切にしている。また、入居者の家族とも連絡を密に行い関係強化に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みのりの家」は社会福祉法人南郷福祉会が運営する特養・ケアハウスなどと共に広い敷地の一面にあり、様々な場面で連携している。県内の介護事業の先駆者ともいえる法人は、開設以来21年目を迎え、近隣の町立の南郷病院・福祉センター、JAみどりのと連携し、地域に密着した事業運営に取り組んでいる。ユニットごとに独自の理念を作り、利用者が笑顔で、のんびり、楽しく過ごせることをめざし、また、家庭のような雰囲気大切に、職員は服装(普段着)や接し方(家族のように)に配慮している。理事長は利用者と昔馴染みのように声をかけ、親しくお茶を楽しんだりしている。地域の防災訓練に参加し、町の文化祭に出品するなど地域の一人としての交流をしている。協力医療機関の町立南郷病院や、健康管理を行う法人の看護師などとの医療連携体制は充実している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者グループホームみのりの家 ）「 ユニット名 すずらん棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりの家」の理念を各棟に掲示、スタッフ会議で確認し合っているだけでなく、各棟ごとに理念を決め常に目のつく所に掲示しそれに基づきケアを行っている	ホームの理念に“住み慣れた地域の一員としての生活継続支援”を掲げ、ユニットごとの理念を全職員で作成、見やすい所に掲示し、利用者がのんびり、ゆったり、笑顔で過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の幼稚園や小学校の行事への参加、駅伝応援、一斉清掃や避難訓練は地域の方々の協力の元参加し、施設周辺の散策や病院受診時の地域の方々との交流、商店街への買い物等があげられる	町内の一斉清掃、避難訓練、文化祭への出品などで交流している。区長が月1回広報紙を持参、行事案内などの情報を提供している。法人主催の運動会、夏祭りに近隣住民が参加し交流している。マンドリン演奏や、書道の指導などのボランティアも訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の行事に参加する事により地域の方々に認知症への理解を頂いている。また、散策の様子を見ていただくことにて理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及びご家族様を交えた運営推進委員会を年6回開催し、日頃の活動内容及び入居者様のご様子、運営状況を報告すると共に参加者からの意見は真摯に受け止め、サービス向上に活かしている	町職員、地域包括職員、地域住民、家族代表、利用者代表の参加で年6回開催している。運営状況など報告し意見交換している。ここでの提案から町内のグループホームの交流会が開催されるようになった。また、誕生会は誕生日に開催されるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは密に連絡を取り合い、困難なケースの解決方法や法律が変わった際には新味にアドバイスを頂き常に協力関係を築けるよう取り組んでいる	町担当者は運営推進会議に参加し、意見交換している。生活保護・成年後見人制度の利用について連携している。町担当者、地域包括職員より入所希望の相談などがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベット柵や施錠はしておらず、事業所内部研修や法人内研修に参加し、職員一人ひとりが理解に努めており、特に言葉による身体拘束に気を配り取り組んでいる	日中、施錠せず、帰宅願望のある方にも、声掛けを工夫し自由に過ごせるように支援している。身体拘束をしないケア・接遇・プライバシーについて法人として研修している。敷地内の法人の他施設や近隣住民の見守りの体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で職員一人ひとりが虐待防止に理解を深め、言葉や態度による虐待に気を配っている。また、家族からの虐待が感じられた時には家族との交流を密にし問題解決にあたっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での内部研修及びスタッフ会議にて学習する機会を設けている。現在、成年後見人制度を使用されている入居者様もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には諸書類を丁寧に説明し不安な点や疑問点は尋ね説明・納得して頂き契約し改定があればその都度文章にて報告説明している。また、解約時にも十分な話し合いをし解約の手続きをしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	両棟にご意見箱を用意しアンケートや家族会にて意見・要望を聞く場を設けており、面会時等に気軽に話しかけて頂ける雰囲気づくりに努めている	家族の面会や、毎月の状況報告の際に意見要望を聞いている。希望に応じて複数の家族に「たより」を届けている。敬老会の後など年2回「家族のつどい」を開催している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員からの意見や提案等を聞く機会を設け、出た意見や提案等は職員全員で話し合い、共有し質の向上に努めている	月1回のスタッフ会議、連絡ノート活用で意見交換している。広報、行事等係としての立場から提案することができる。ランチバイキングや、玄関に担当職員の写真を掲示などの提案があり、実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉等の資格を習得した職員には資格手当を支給し賞与や昇給にも配慮しやりがいのある職場環境に努め、国家資格を受験し取得すると共に諸研修等に参加するよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員の力量を把握すると共に、諸研修会に参加する機会を与える事にて質の良いサービスが提供できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会が主催する交流会や町内のグループホームの会議に参加しネットワーク作りに努め、外部研修やグループホーム協議会主催の報告会等に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や家族の話を傾聴し、今のようなケアを必要としているのかを把握しながら入居者に寄り添い信頼関係を築き、なんでも話しやすい雰囲気づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の実態調査や契約時に困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、これからどのような支援を行って行くか詳しく説明する事にて信頼関係を築き、面会時には積極的に声をかけ入居者様の様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が支障となっている所を見極め自立支援向けどの様な支援が必要なのかご本人及びご家族へ説明し納得して頂いた上でケアプランに取り入れ、その人らしい生活が送れる様支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、今できる事を見極め職員と一緒に掃除機かけや洗濯物たたみ・配膳・下膳等を積極的に行っている。また、敬う気持ちを忘れずにケアを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へはお便りとみのりだよりにて入居者様の日常生活面をご報告し相談事があればその都度対応しており、ほとんどのご家族は月一回は面会に来られ居室や談話室にて過ごされている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで親しくされていたお友達や近所の方が面会に来られたり、馴染みの店へご家族や職員と一緒に買い物へ出掛けている	好物のおやつや好きな花などの買い物、馴染みの店などに出掛けている。2ヶ月に1回、地元の理容室が来訪している。家族と一緒に美容院や墓参りが出来るよう支援している。知人や友人が訪問しお茶を楽しめるよう配慮している。	家族が気軽に訪問できるような「カフェ」などの取組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの個性を把握し、共通の楽しみ(カラオケ・風船バレー・カルタ等)のレク活動を企画・参加して頂いている。また、配膳時等には入居者同士が協力し合う姿が見られている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の事について不安等があれば相談に応じると共に、必要時にはご家族の承諾の上アセスメント等を次に入所される所へお渡ししております		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際にご本人及びご家族の意向を把握しケアプランに取り入れている。意思疎通が困難な場合は介護支援専門員が代弁者となりご本人の意向が聞き出せる様努めケアプランに取り入れている。	職員は利用者2人を担当し、ゆったりと対応する時間をつくり、特に意識して意向把握に努めている。把握困難な利用者は、表情から汲み取り、家族から情報を得るなどして支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時には生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境等をご本人又はご家族よりお聞きすると共に、ご家族の承諾の上、これまで利用されていた事業所から情報収集をしております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活の流れを観察した上で残存機能を把握し職員全員で共有しながら、心身の状態は細かくケース記録に残し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支障となっている事につきご本人及びご家族の意向を聞き入れ自立支援に向けたケアプランを作成し、モニタリングは基本3カ月毎、心身状態の変化時はその都度行い、現状にあった介護計画の見直しを行っている	3ヶ月に1回モニタリングし、年2回、家族の要望も入れてプランを見直して説明している。また、必要に応じて、管理者、ケアマネジャー、家族が相談し、かかりつけ医の意見も勘案し、プランを見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づき・工夫は個別に記録し、ケアの実践は「ケアプランチェック表」に記入し職員間で共有し基本3カ月毎、心身状態の変化時はその都度モニタリングを行い再アセスメントし介護計画の見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状態の変化により新たにニーズが発生した場合はその都度ケアカンファレンスを行い再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づき支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校関係だけでなく、近所の商店への買い物、地場産品売り場やスーパーへの買い物などに出かける事が入居者様の楽しみになっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望により協力病院や精神科を受診しておりその際は入居者様の状態を画面にて報告することにて適切な診断を受けられており、かかりつけ医と事業所との連携も図れている	本人、家族の希望するかかりつけ医(南郷病院など)で、家族、職員が付添い受診し、結果は情報共有し、日々の支援に反映している。必要に応じ眼科や精神科の受診を支援している。法人の看護師が週3回健康管理し、利用者が入所後薬を必要としなくなるなど改善がみられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回勤務しており、入居者様の体調の変化や状況を報告・相談し指示を受け、必要時かかりつけ医に受診しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書を病院へ提出し時々、看護師や職員が病院へ行き医師又は看護師より情報を得て早期に退院出来る様努めている。そうした場合に備え、定期受診時に病院関係者との信頼関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期に綿密に話し合いを行い今後の方針を決定し、終末期のあり方については入所時に「出来る事と出来ない事」を説明し意思同意書に記入してもらい、その方針は共有化し地域の関係機関に連絡しチームで支援に取り組んでいる	「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する意思確認書」に基づき家族・利用者に説明し同意書で意思確認している。基本、ホームでの看取りはしておらず、病院や他施設に移られた際には、連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の内部研修及びスタッフ会議にて学習会を開催し、応急手当や初期対応の仕方・AEDの使い方も定期的な講習に参加し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに基づき昼夜を想定した避難訓練を毎年定期的に行う事にて全職員に身に付け、災害時には法人は元より地区の消防団・協力病院・農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制を整えている	マニュアルを作成し、スプリンクラーを設置している。年2回避難訓練を消防団、近隣住民等の協力で実施している。夜間想定訓練は、夜8時に火元をユニット交互に想定し実施している。同敷地内の他施設との協力体制もあり、法人としての備蓄もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議にて接遇に関する内部研修を行い一人ひとりの人格を尊重した呼び方やトイレ誘導時等は何気なく声掛けをする等プライバシーを損ねない声掛けやスピーチロックに心がけ対応している	プライバシーの保護、接遇についての内部研修を実施し、スピーチロックには特に注意し、一人ひとりを尊重した支援を心掛けている。例えば、耳の遠い方には前から、またタッチしてから耳元で声を掛けるようにしている。希望の呼称で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が自分の思いや希望を表現しやすい雰囲気づくりに努め、その思いを職員全体で受け止め本人が自己決定出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の生活を押し付けることなくご本人のペースにてゆったりと生活が送れ、毎日のレクリエーション等においては入居者様の意見を取り入れ無理強いせずご本人のペースを重視している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来る様自分の好きな服を選んで来て頂いたり、おしゃれに関しては、毎日お化粧をされている方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳等は出来る範囲でお手伝いして頂き、旬の食材の使用・季節料理を提供する事にて季節感を感じて頂き、食べたい物を聞き出しメニューに取り入れる等食事を楽しんで頂けるよう支援している	法人の管理栄養士がメニューを作り、地場産品の季節の野菜を使って、職員が調理している。きざみ食やとろみ食にも対応している。配膳や調理に利用者も参加し、干し柿作りにも取り組んだ。赤飯、おくづかけなどの行事食、誕生日の手作りケーキ、外食などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が立てたメニューを基に食事を提供しており栄養のバランスは図れている。また、十分な水分補給に努め身体機能や状態に応じた食事形態で提供し摂取量にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自のコップにてうがいをして頂くと共に起床時及び就寝前はその方の能力に応じ、うがい又は歯磨きをして頂き口腔内の清潔が保持できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況の都合上常時オムツ使用している方は二名おりますが一人ひとりの排泄パターンや仕草よりサインを察知し何気なく声掛けをしトイレにて排泄をして頂く事にて自立に向けた支援をしております	排泄チェックリストに基づき、トイレで排泄できるよう支援をしている。「おしくらまんじゅう」、「おらほのラジオ体操」などで体を動かし、繊維質の多い食事、水分補給などでスムーズな排便に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通じて十分な水分補給に努めており記録に留めております。また、ラジオ体操や体を動かす事に心がけたり、毎日牛乳を提供したり、食物繊維の多い食材を取り入れた食事を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は一日おきの入浴となっているが、希望時はいつでも入浴が可能であり、日替わりで入浴剤を使用し温泉気分を楽しんで頂いている。また、一人ひとりの身体状況を把握し入浴支援を行っている	2日に1回の入浴を目指し柚子湯、菖蒲湯など入浴を楽しんでいる。希望者には好きな時間、毎日の入浴支援も行っている。手すりなどが工夫され、滑り止めのマットが準備され、安心して入浴できる体制を整えている。無理のない入浴への声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しゆったりと生活して頂いている。また、日中散歩したり身体を動かす活動を多く取り入れることにて自然な眠りが出来る様支援し、就寝時間は個々のペースにて休んで頂いております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳を準備し処方箋を使用し常に職員が把握に努めている。特に薬が変わった時は副作用や用法・用量を申し送りしている。常に服薬の支援と副作用の観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に応じた役割りを職員と一緒に行う事にて張り合いのある生活が送れる様支援したり、ドライブや買い物・散歩・ボランティア活動及び行事等に参加して頂く事にて気分転換が図れる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒にドライブや買い物に出掛けたり、入居者様全員での外食やご家族と合同の忘年会等へ参加されている。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加したりご家族の協力の元、外出や外泊も楽しまれております	年間計画を立て、季節の外出を楽しんでいる。日常的には、天候など見ながらドライブや好きな花など買い物に出掛け、おやつ外食も楽しんでいる。忘年会は南三陸の「ホテル観洋」に家族と一緒に参加した。日々、近所の散歩で近隣住民と挨拶を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は預かり金として管理しておりますが、買い物へ出掛けたり、併設施設でのスナックかかし等での支払いは能力に応じご本人に支払いを行って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話には直接お話し、残暑見舞いや年賀状の郵送・家族から手紙が来た際はご本人にお渡し読めない方は職員が代読・本人から家族への手紙も預かり郵送している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気や時間の経緯が分かるよう自然光を取り入れたり、温度・湿度・換気に気を配り快適に過ごして頂けるよう配慮している。また、玄関や廊下・食堂等には季節感のある装飾品や草花を飾る事にて居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	リビングは明るく和風の木造の内装で、畳のコーナー、和紙の照明など落ち着いた空間となっている。ウッドデッキは、日向ぼっこやバーベキューに使われている。共用空間には、日めくりカレンダーや新聞があり、利用者の買ってきた季節の花や、クリスマスの装飾などから季節を感じられるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娯楽室のペースを設けており、お一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思いい思いに過ごせる居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長のように安心して生活が送れる様、ご家族と相談しながら使い慣れた筆筒や位牌・昔の写真を飾ったり、馴染みの小物を置く事にてご本人が居心地良く過ごして頂けるよう工夫している	居室には掃出し窓に障子がつき、和の趣きがあり、ベッド、押入れ、洗面台が備わっている。廊下側に小さな障子の小窓がついている。入口には写真と名前の表札があり、好みの椅子や日記を書くテーブルなどが置かれ、家族写真や外出の際の写真などが飾られ、その人らしい工夫がある。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式トイレに補助具・脱衣場にも補助具が付いており残存機能を生かし出来る所が安全に自立した生活が送れるよう環境作りに工夫している		